ITFマースク・ネットワーク代表者会議が2018年４月10日にコペンハーゲンで開催された。その翌日には、APモラー・マースク株主総会が開催され、ITFも出席した。

ITFマースク・ネットワーク代表者会議では、マースク、APMターミナルズ、スヴィツァーに関する情報交換やITF加盟組合にとっての懸案事項の議論が行われた。また、マースク側から自動化に関するプレゼンテーションが行われたほか、国際労務責任者のルード・ヴァンダー・ウェル氏が質問に回答した。

代表者会議に先立つ2018年３月にブエノスアイレスで中南米のAPMターミナルズを組織するITF加盟組織の会議が開催されており、コペンハーゲンの代表者会議でも中南米の労使問題が議論された。この中南米の労使問題は株主総会でも提起された。

ITFは、株主総会で、世界および国レベルでの建設的な対話の継続（自動化に関する会議を含む）を要請した。

ITFは現在、APモラー・マースクが中南米で自社の「企業の社会的責任方針」に違反している証拠を集めている。証拠はAPモラー・マースクに提示する予定だ。